

要旨

日本語学習者のメール文に見られる「断り」

Email refusals by learners of Japanese as a foreign language

ニューサウスウェールズ大学

University of New South Wales

ジェシカ・レウン

Jessica Leung

本発表では、英語を母語とする日本語学習者の断りのメール文を分析し、日本語学習者と日本語母語話者にどのような違いがあるか、母語からの影響が見られるかを明らかにすることを目的とする。

これまでの「断り」の発話行為に関する研究では、アジア圏の日本語学習者を対象としたものが多く、英語母語話者の日本語学習者を対象としたものは少ない。近年、コミュニケーション手段として電子メールが広く利用されるようになったが、英語母語話者である日本語学習者の断りのメールに着目した研究は、筆者の知る限り存在しない。

本研究は、国立国語研究所の「多言語母語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）」のデータの中から、日本語母語話者48名、英語を母語とする日本国外の日本語学習者23名、英語母語話者の非日本語学習者15名の合計86名を研究対象にし、断りのメール文における意味公式の使用・内容・言語形式を分析した。

その結果、日本語学習者と日本語母語話者のメールに現れた言語形式の種類と丁寧度に違いが見られた。また、母語の影響と考えられる特徴も見られた。例えば、英語母語話者の日本語学習者と非日本語学習者は【提案】が多かったのに対し、日本語母語話者のメールでは使用頻度が低かった。一方、英語母語話者の日本語学習者と非日本語学習者の【思いやり発話】の使用は比較的少ない傾向が見られた。このことから、日本語学習者の断りのメールは学習者の母語に影響された可能性があることが示された。